

学校教育目標 「自ら学び 心豊かに たくましく生きる児童の育成」



学校だより

えのき 12月号



皆野町立皆野小学校 令和7年12月1日 発行

## 「選択する力」を高める学びを

校長 吉田 浩

小学校統合準備の一環として、11月10日に、**国神小学校、三沢小学校のお友達を迎えての児童集会、「スリースマイルフェスティバル」**を開催しました。縦割り班活動で、高学年はリーダーとして、低学年はチームの一員としての自覚を養い、「みんなの笑顔」という同じ目的に向かって協力することを体験しました。3つの小学校のお友達が一堂に会し、お互いの交流も進みました。「皆野町の子」としてのつながり、そして一人一人が役割を果たし「**自己有用感**」を感じるひとときでした。

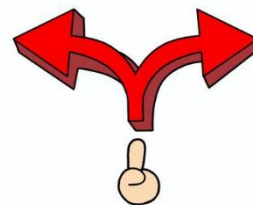


「**自分は役に立っている**」という「**自己有用感**」を育むには、ご家庭での「**お手伝い**」も有効です。多くの子供たちが体験でき、家族や社会の一員として、自分の役割を自覚することができます。学校でも、様々な活動や係などの役割分担を通じ、「**自己有用感**」を育み、自分に自信を持つことで、「**自律心**」（**自分自身でたてた規範によって行動できる心**）の醸成につなげたいと思います。



一方で、ネット社会とも言われる現代は、ちまたに様々な情報があふれています。しかし、全てが正しい情報とは限りません。SNS等での**情報はフェイク**と言われる「**うそ**」もまことしやかに**拡散される時代**です。また**情報の「正しさ」は状況や立場によっても変わります**。子供たちの単純な言い争いから、国同士の争いまで、「**正しさ**」を主張し合うことから始まります。

そんな情報化社会の中では、自分や相手の立場を認識し、自分なりに「**選択する力**」が必要とされています。選択することは自己有用感を高める重要な要素です。**選択を通じて自分の意志を表現し、結果に責任を持つ**ことで、**自己有用感**が育まれます。選択が失敗することも多々あります。しかし、それであきらめるのではなく、よい経験として、また新たな選択のできる子供たちを育みたいと考えます。選択する力は経験によって成熟していくからです。



授業の中でも、**友達の意見と自分の意見を比較しながら、より良い選択ができる学び合いの場**を設けています。調整力、協力性といった非認知能力を高めるにも、**多くの情報の中から、有効な選択をする力**が大切です。皆野小でも教育活動の中で、様々な選択場面を設定し、「**選択する力**」を**高める学び**を進めていきたいと思っています。